

河川砂防技術研究開発公募 地域課題分野（砂防）
令和2年度採択テーマ
事後評価結果

研究テーマ名	研究代表者	総合評価
複合型リスクを有する土石流溪流での土砂流出の実態解明と対策の検討 (研究期間：R2年度～R4年度)	静岡大学 教授 今泉文寿	A
<p><研究概要></p> <p>複数種類の土砂流出現象が発生する溪流では、土石流対策が他の土砂流出現象に対して発揮する効果を明らかにし、すべての土砂流出現象による被害を抑えることのできる最善の対策手法を検討すべきである。本研究では土石流、スラッシュ雪崩などが発生する富士山大沢川流域において、それぞれの現象の流下特性（侵食・堆積特性）の実態把握を行い、気象・地盤条件等が土砂の流下特性に及ぼす影響を明らかにするとともに、複数の土砂流出現象が発生する流域におけるソフト・ハード対策の在り方について検討した。</p>		
<p><事後評価コメント></p> <p>本研究では、富士山大沢川において発生する多様な土砂流出現象に対して、現地調査に基づき地盤の凍結期・非凍結期や積雪の有無等の条件により、土砂流出の形態や流下特性が異なることを明らかにした。また下流の遊砂地が流出土砂を捕捉している実態を示し、大沢川における土砂管理への活用を提示している点からも評価できる。</p> <p>今後は、流出土砂量に大きく影響を及ぼす要因の一つと考えられる、ガリー底部や側壁の侵食過程に関する検討を進めていただきたい。</p>		

※評価基準

- A：研究目的は達成され、十分な研究成果があった
- B：研究目的は概ね達成され、研究成果があった
- C：一定の研究成果があった
- D：研究成果があったとは言い難い